

平成29年度 第2回
射水市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進委員会 議事要旨

1 日 時 平成29年10月19日（木）午後1時30分～午後3時40分

2 場 所 射水市役所 会議室305、306

3 出席者

(1) 推進委員会委員

成瀬委員（会長）、新鞍委員（副会長）、矢野委員、竹内委員、高委員、中川委員、川口委員、能登委員、岡田委員、松原委員、長慶委員、稲垣委員、砂原委員、小林委員

(2) 事務局

岡部福祉保健部長、島木福祉保健部次長、前澤市民病院看護部長、釣保健センター長、渡邊介護保険課長、小見地域福祉課長、佐野地域福祉課長補佐、中山地域福祉課長補佐、稲垣介護保険課介護保険管理係長、宮本介護保険課認定係長、政岡地域福祉課地域ケア推進係長、堀岡介護保険課主任、池田地域福祉課主任、吉田介護保険課主事

4 欠席者 石灰委員、新中委員

[会議次第]

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) アンケート調査の取りまとめ結果について

- ・介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
- ・在宅介護実態調査

(2) 被保険者数及び要介護認定者数の推計について

(3) 高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画の骨子案について

4 閉会

[議事要旨]

事務局 【議題(1)「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」説明】

委員 アンケートでは、商店が近くにないという回答が多数あったが、商店街に店が増えるように、商工会・商工会議所では創業者支援をしている。商店街等のコミュニティ維持のため、65歳以下の方も若いうちから商店街を利用していただくようお願いしたい。

委員 11ページの「主な介護・介助者」の部分で、子の配偶者が6.6%と少ないのが意外だった。93ページの「今後、高齢者保健福祉施策で市が力を入れていくべきもの」で、現役で働いている人と働いていない人でのクロス集計は行ったのか。

事務局 「家族の介護負担を軽減するための施策の充実」の年齢層別集計では、65～69歳で67.3%、70～74歳で65.1%、75～79歳で60.1%と若い世代の方がニーズは高い。「グループホーム等の認知症高齢者向けサービスの充実」は、90歳以上でもニーズが高くなっている。現役で働いている人のクロス集計は、実施していない。

会長 18ページの「現在の場所に住み続けるために必要な環境」で「自宅への往診など」が37.2%となっているが、自宅への往診を求める需要が増えたのか、近くに医療機関がないからなのか、どういうターゲットにどうしたらいいか、よく分からない。

事務局 地域にいる高齢者、要支援1・2の認定を受けている方で、自宅への往診を望む割合が増えている、と判断できると思う。その要因としては、施設の入所までに時間がかかったり、通院に交通手段や経済的な問題で大変であるとか、重度の方でも早期に在宅に戻されていることなどである。

会長 数年前にも医療連携という話があったかと思うが、それにもかかわらず自宅への往診を求めるポイントが上昇したということは、ここ数年の努力は実っていないということか。

事務局 医療の連携については、射水市医師会の協力を得ながら訪問看護や訪問介護との連携など、それぞれ成果を得ている。高齢者が増えていく中で、そういう部分を必要だと判断する方が増えているというアンケート結果である。

会長 これまでどおりのやり方ではよくない、もっと新たな関係性を築いていく必要

があるということか。

委員 医療・介護の連携は進んでいると思う。在宅における支援や連携は、ここ最近進んでおり、在宅医療をする医師も増えている。ケアマネジャーは、要介護者の社会参加の推進や生きがいの創出につながるようなケアプランをたてることのできないか、と思う。

事務局 射水市では、今年の4月から総合事業がスタートした。中川委員の地区（七美地区）で先進的な取組を実施していただいております、今までデイサービスに通っていた方がコミュニティセンターでの活動へ移行され、参加者は元気になったという報告を受けている。また、主任ケアマネジャーが月一度集まって、プラン検討会を開催しており、より自立を目指すようなプラン策定の知恵を出し合ってもらっているが、さらに充実させたいと思っている。ケアプランについては、インフォーマルサービスを利用して、元気な状態を維持できるような「ケアプランC」もある。ケアマネジャーに周知しながら自立支援に向けて取り組んでいきたい。

事務局 地域支え合いネットワーク事業が進展し、高齢者が声を出せるようになった。サポーター研修にもたくさんの方が参加され、素晴らしい方向に向かっていると思う。

事務局 【議題(1)「在宅介護実態調査」説明】

会長 考察の(1)「主な介護者の年齢は、60歳以上が半数を占めていることから、介護者自身のケアをするとともに、介護を維持していくことへの取組を検討していくことが必要であると考えます。」について、過去に検討されていなかった、ということか。

事務局 介護者の支援として、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所等において、家族介護教室を開いて、家族の心情をフォローするとともに、より介護がしやすくなるような必要な知識をつけてもらう取組をしている。

委員 要介護度の認定審査にバラつきがあり、審査を受けた人が怒っている。切り離された（要介護度が低く認定された）人とそうでない人の違いが分からない。審査会での射水市が実施している人材育成や研修について教えてほしい。

事務局 審査会は、その方の外見だけを見て判定しているわけではないので、同じ様に見えてもバラつきはあると思う。審査会では研修も行っている。

事務局 今回の計画の中に、適正な認定についても盛り込みたい。

委員 考察(4)の「地域住民に向けて情報発信が必要・・・」の部分だが、認知症サポーター養成講座を開催し、受講者がオレンジリングをもらって嬉しそうにしていて、もっと受講者が増えればいいと思う。

委員 認知症に対する理解が深まっているが、地域によって差があるように思う。みんなで助け合い、協力し合えるように、市はもっとPRをしてほしい。

委員 課題会議に一人でも多くの人に来てもらうことが大事である。地域のことを語り合う場が必要だし、どこでもできることであり、誰でもできることである。

事務局 地域の力をどう引き出すかは、全員賛成を求めるとなかなか進まない。協力を求める形にする方がうまくいく場合がある。

事務局 【議題(2)説明】

会長 これらの数値は、今後の介護保険料に影響を与えるものという認識でよいか。

事務局 今後の介護保険料見込みの基となるものである。

委員 推計の数値で、射水市の特徴や特別高い数値があったりするのかな。

事務局 厚生労働省の「見える化」システムにより、これから県内の推計と比較していく。

会長 推計の数値は、平成27～29年度の実績が反映されたものか。

事務局 そのとおりである。

事務局 【議題(3)説明】

委員 素晴らしい基本理念だと思う。地域包括ケアシステムの構築が重要だと思うが、27地域振興会がそれぞれ同じ方向を向いていかないといけないし、温度差や活動内容にも差がある中で、100歳体操がメインとなっている地域もあるが、100歳体操をやって終わりというわけではない。今後もみんなで盛り上げていく必要はあるが、他の市と比べても一生懸命やっていると思う。

事務局 取組の核心は、高齢になっても、支えが必要な状態になっても、安心して住み

続けられる地域づくりである。100歳体操や地域ふれあいサロンだけをすればいいというものではない。100歳体操やふれあいサロンをツールとして使って、住みやすい地域をつくっていただきたい。

委員 在宅生活の支援として、介護者勤務先での介護休業の取得促進等、働き方の調節やライフワークバランスの充実を支援できるような施策があれば検討してほしい。

委員 「2 社会参加の推進と生きがいの創出」の部分で、「生きがいなし」との回答が4割いたのには驚いた。市の考える施策以外にも何か方法があるのではないか。高齢者の能力を生かせる職場がなかなか無く、雇用の促進は難しいと思うが、市はどのような考えを持っているのか。

事務局 生きがいなしの回答が4割の結果は、重く受け止めている。それぞれ価値観が違う中で、社会参加の推進と生きがいの創出の決定打というのはなく、難しい問題である。県のシニア人材バンクのような取組を検討し、次回の素案に盛り込みたい。スポーツや生涯学習に若いうちから取り組み、仲間づくりにつなげることも重要だと思う。

委員 今回の基本理念は、第6期計画の抽象的な表現から比べると、明確になっていて素晴らしいと思う。地域包括支援センターの認知度向上も素晴らしいが、それでも半分しか知られていないので、これからも認知度を高める努力が必要だと思う。地域包括ケアシステム構築について、27地域振興会でそれぞれ取り組まれていると思うが、地域に格差が出てはいけないと思うので、行政が見守り、差が出ないようにしてほしい。民間と連携した買い物支援というのは、具体的にどういうものを考えているか。

事務局 買い物に行くのに交通手段がない人の対策として、移動販売車を活用した民間事業者との連携を検討しており、是非取り組んでまいりたい。

事務局 地域の支え合いは、行政サービスとは趣が異なると考えており、それぞれの地域の実情に応じ、取組に違いが出るとも考えている。地域支え合いの取組で、市では、地域間に差が出ず、それぞれが充実するよう情報提供や支援に努めたい。

委員 要支援1・2の人は、100歳体操などがあり、恵まれていると思うが、要介護1～5の人は、思うように入院・入所ができなかったりするので、自宅のトイレで苦勞することがある（特に高齢者夫婦）のでどうしたらいいか。

事務局 従来、一人暮らし高齢者のみ実態把握調査を行っていたが、昨年度から高齢者のみ世帯でも実態調査を行い、必要なサービスを受けられるよう相談を行っている。在宅生活を継続していく取組を行っているが、これからも充実させていきたい。

委員 今回の基本理念は、具体性が出たと思うが、「ともにめざす健康長寿のまちづくり」で「めざす」と「づくり」が言葉としてダブっているように感じる。理念の最後に「射水」を残した方が個人的にはいいと思うので、「ともにめざす健康長寿のまち 射水」ではどうか。「地域包括ケアシステムの深化・推進」が基本目標の中に入ったことで、埋もれた印象を受けたので、もう少し表に出るような形が個人的にはいいと思う。

事務局 最後に「射水」とすることについて、事務局で再度検討したい。「地域包括ケアシステムの深化・推進」を基本目標のサブテーマに入れるかどうか、再度事務局で検討したい。

会長 施策の中で重点的なものについては、数値目標を設けることはできないか。

事務局 できる限り、数値目標を掲げたいと思う。

事務局 国が明確な指標を明らかにしていないが、12～1月頃には明確になるので、指標が公表されれば明確に指標を入れていきたい。